

新川河口から石狩湾新港西側にかけての海岸部、および石狩湾新港工業団地を巡るルートです。砂浜、海岸砂丘、日本最大規模のカシワの天然海岸林など、全国でもまれに見る豊かな自然を満喫できる海浜エリアと、工業団地造成地や巨大工場群などの人工物に囲まれたエリアという全く対照的な

景観を楽しめます。江戸時代に松浦武四郎が歩いた海岸、明治から昭和にかけて、この地に発展した樽川村の記念碑、現代のスケールの大きな工場群や全道一の規模となるLNG火力発電所の建設地など、過去から未来へダイナミックに変貌を続ける地域です。

コースのルート／距離／所要時間

赤コース

ルート……樽川公園→9線→6線→新川河口→手稲山口団地
距離…約10km／所要時間…180分

青コース

ルート…樽川公園→9線→6線→樽川墓地→樽川公園
距離…約8km／所要時間…150分

バスでのアクセス

樽川公園
(バス常駐箇所)

6号棟前
手稲山口団地
(逆ルートの場合)

- ・北海道中央バス[石狩新港団地線]「地下鉄麻生駅」乗車約29分「市民生協前」下車(朝3便、逆ルート夕方4便)徒歩2分。
- ・北海道中央バス[石狩新港西線]「手稲駅北口」乗車約18分「市民生協前」下車(朝2便、逆ルート夕方2便)徒歩2分。
- ・JR北海道バス[山口団地線(手40・41、循環手40・41)]「手稲駅北口」乗車約14分「手稲山口団地6号棟前」。
- ・JR北海道バス[発寒団地線(宮42)]「地下鉄宮の沢駅前」乗車約36分「手稲山口団地6号棟前」。

コースの見どころ・名所

1 樽川発祥之地碑



樽川村の発祥地はオタナイ(現新川河口右岸)で、江戸時代後期には鮭漁場が開設されていた。明治15年開村。ほぼ当地図全域が村域で、石狩湾新港建設に際し、昭和50年、一部を小樽市に割譲。村民は移住し、工業団地が形成されていった。樽川公園はかつての樽川村の中心地。

2 工業流通団地エリア



石狩湾新港建設に併せて開発されてきた石狩湾新港地域は道内最大級の工業流通団地。操業社数は600社を超え、就業者数約13,000人。(見学可能な工場あり。別欄参照)

3 カシワの天然海岸林



明治時代から防風保安林として守られてきた日本で最大規模のカシワ林。9線の工業団地エリアから海に抜ける道では約500mに渡り両側にカシワ林の断面を見ながら歩け、樹高が海側ほど低い様子も観察できる。

4 石狩砂丘



波打ち際から200m付近に約10mの高まりが小樽市銭函大浜から石狩市厚田区無煙浜まで約25km続く。ハマニンニク、ハマエンドウ、ハマナス等の海浜植物の群生が見られる。このエリアは石狩湾新港完成後、漂砂の供給が止まり侵食が著しい。砂丘をこれ以上壊さない配慮が求められる。

5 旧小樽内川跡の沼



かつて新川が作られる前にあった小樽内川の跡。江戸時代後期、この周辺をオタナイと呼んでいた。





石狩海岸 フットパス



石狩砂丘と新港工業団地を巡る道

3

制作・編集・発行：いしかり海辺ファンクラブ

フットパスのマナー

- ゴミは持ち帰りましょう。
- 砂丘を崩したり、植物を傷つけないようにしましょう。
- 住んでいる人の生活と仕事に敬意を払いましょう。
- 港や船着き場を通る時は、作業者の邪魔にならないように注意しましょう。
- 漁具に触れないようにしましょう。
- 不必要な騒音は立てないようにしましょう。

フットパスを楽しむための注意

- 長時間歩くのに適した服装、装備をご用意ください。
- 砂浜や砂丘では、バギー車やバイクの走行に気をつけましょう。
- 道路を歩く時は、車に注意しましょう。
- コースによってはトイレや休憩場所が少ない場合があります。出発前に用を済ませてから歩きましょう。

ご利用の際の事故や怪我は自己責任となります。無理をせず安全第一でお楽しみください。

石狩海岸(石狩市本町地区)へのアクセス



- 札幌方面から国道231号線を留萌方面へ。志美交差点を左折、道道225号線を約3km。

- 留萌方面から国道231号線を札幌方面へ。石狩河口橋を渡り右折し約3km。



- 北海道中央バス「石狩線」「札幌ターミナル」乗車約60分、「石狩温泉」下車。



お問い合わせ先

北海道大学大学院 農学研究院 気付 TEL&FAX: 011-706-2451 (担当:松島)
mail: iufc.office@gmail.com web: http://ishikari-umibe-fc.jimdo.com

写真提供: 石狩観光協会・石狩浜定期観察の会・北海道野鳥愛護会会員・いしかり砂丘の風資料館・石狩浜海浜植物保護センター



このパンフレットは「コンサベーションアライアンスのアウトドア自然保護基金」の助成により制作しました。

2014.3

新たなコースの設定も計画しています。

- 3線スタート: 全長5.7km、1時間20分
- 5線スタート: 全長8km、1時間50分、4線スタート: 全長7.1km、1時間40分
- 石狩浜海浜植物保護センター
- 5線、4線、3線 ● 新港東、頭周辺 ● 花街道 ● 砂浜 ● 第一砂丘 ● 花街道

と向かうルート。途中の花街道では季節の花が楽しめる。石狩新港東、頭周辺を通り、積丹半島から雄冬岬まで石狩湾の眺望を横目に、海から陸へ向かって植生が変化していく浜辺の自然を感じながら、本町地区へ

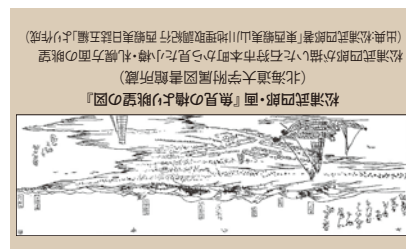
● 新港東から本町へのうみべみち

(赤コース: 全長1.8km、35分、青コース: 全長2.3km、40分)

現在、海浜植物群や日本有数の天然カシワ林を身近に観察することもできる。沿の周囲を巡ることができ、石狩湾と手稲の山並みの広大な景観が楽しめる。また、

● 新川河口・旧小樽内川跡とカシワ林の道

コース紹介(本マップ以外)



自然と歴史と未来を体験できる数々の道を、あなたも歩いてみてください。新たな開発が行われている場所でもあります。石狩湾の大パノラマのもと、海辺の道を利用してきた歴史があります。近年になり石狩湾新港ができ、砂丘海岸の豊かな生態系とともに、古くから人々は小樽と石狩をつなぐこの元年)において、保全を図るべき「すぐれた自然地域」に選定されています。残る、全国でも希少な場所となっており、北海道自然環境保全指針(平成のままでの砂浜、砂丘上に広がる海岸草原、カシワの天然海岸林が大規模に小樽市銭函から石狩市厚田区望来までの約25kmの石狩海岸は、自然

石狩海岸フットパスとは



石狩海岸の自然

石狩海岸は、札幌中心部から車で45分という大都市近郊にかかわらず、生物多様性に富んだ海辺の自然環境が大規模に残された全国的にも貴重な自然海浜です。

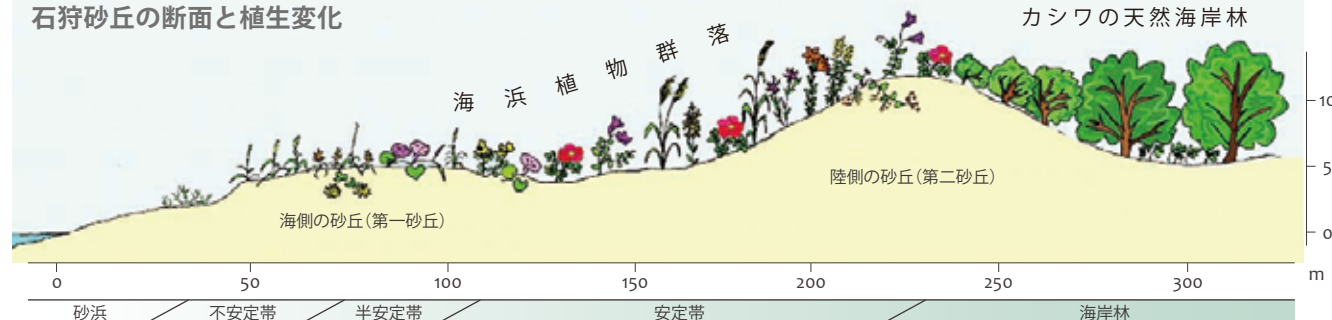
石狩川が運び、北西季節風が沿岸に寄せた砂によって形成された延長25kmにわたる海岸砂丘地形、大規模な海浜植物群落、日本最大規模のカシワの天然海岸林、これらが織りなす海岸砂丘特有の植生、海岸草原や水辺の野鳥、猛禽類、海浜特有の環境に生きる昆虫類等、これすべてが石狩海岸のすぐれた自然の要素となっています。

海から内陸への植生の連続性

砂浜海岸は本来、海からの距離に応じて和らいでいく環境条件に対応して、植生の帯状の分布が見られ、海から内陸へ連続的に植生が変化していきます。しかし、近年は全国各地の砂浜海岸で、護岸・堤防建設、植林等により、本来の植生の連続性が失われつつあります。石狩海岸は、砂浜海岸本来の植生の連続性が大規模に残る全国的にも希少な自然海岸です。植物に覆われた砂丘は海岸の厳しい環境を和らげ、天然の防波堤として、高波などから背後を守ります。

また、すぐれた景観と快適なレクリエーションの場を提供します。

石狩砂丘の断面と植生変化



カシワの天然海岸林

小樽市銭函から石狩市厚田区望来まで、延長約20km最大幅約500m以上にも及ぶカシワの天然海岸林は、日本最大規模となっています。環境省が選定する「特定植物群落」のうち、郷土景観を代表する植物群落であり、人為的影響により急速に少なくなる恐れがある群落とされています。カシワは、厳しい海岸砂丘の環境に適応し、東北～北海道の天然海岸林を代表する樹種です。



カシワの実(9月頃)



冬のカシワ林

石狩海岸に生きる生命たち

海、砂浜、草原、森……多様な自然のつながりが多様な生態系を育んでいます。この自然が残されているからこそ、各地で絶滅の危機に瀕している生きものの達が、当たり前のように石狩海岸では見られるのです。



オジロワシ



ハヤブサ



ハマシギ



ハマニガナ



ノゴマ



ノビタキ



エゾカワラナデシコ



カシワ



ハマニンニク



コウボウムギ



ハマボウフウ



ウンラン



ハマナス



エゾスカシユリ



イソコモリグモ



アカダマssp.ボウタケ



ハマヒルガオ



ハマエンドウ



イソスミレ



イソスミレ